住宅用火災警報器

10年を目安に交換を！

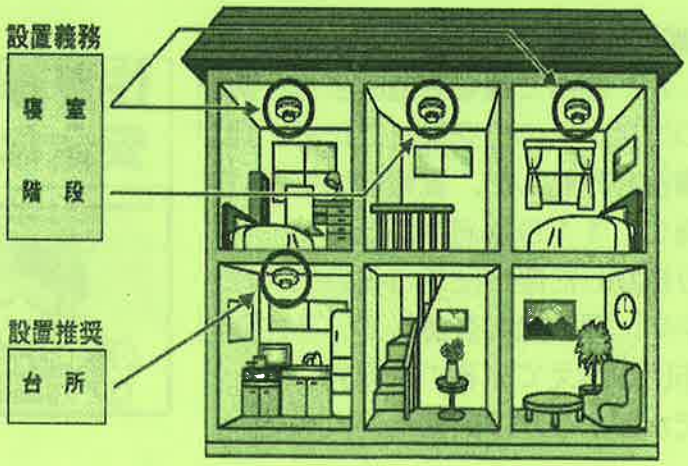
平成２３年６月１日から設置が義務化されています。

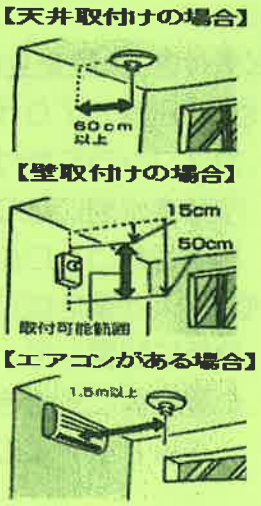
住宅用火災警報器は、10年以上経つと電池切れや内部の部品が劣化して、正常に動かなくなる可能性がありますので、本体の交換が望ましいとされています。

また、火災時に適切に作動するよう、維持管理も必要です。点検ボタンを押す、点検ひもをひっぱるなど、定期的に作動確認を行ってください。

住宅用火災警報器は、火災を早期に発見できる大切な機器ですので、まだ設置されていないご家庭は、早急に設置をしてください。

設置場所・取付場所をチェック！





土岐市防火管理者協会・土岐市危険物安全協会

10年たったら、とりカエル。

お宅の火災警報器の話です。

住宅用火災警報器 メンテナンスのポイント

☑掃除

ホコリや水滴などは誤作動や故障の原因となります。警報器本体やその周りをきれいに保ちましょう。

☑動作チェック

点検ボタンや引きひもがついている警報器は、定期的に点検を行いましょう。自動試験機能がついていない警報器は交換期限を守り交換しましょう。

☑故障や電池切れ

故障したり電池切れになったら、各機種の取扱説明書をよく読み、正しく取り扱いましょう。

☑燻蒸消毒

警報器の設置している部屋で、燻蒸消毒を行うときは、警報器をポリ袋などで覆うなどして、誤作動を起こさないようにしましょう。

住宅用火災警報器の奏功事例

≪火災に早く気付き、命を取り止めることができた事例≫

◎ 一般住宅の２階で就寝中、ベッド上の寝具がヒーターに接触して出火した。住警器の警報音により目覚め、階段を下りて玄関から避難した。火傷を負ったが命に別状はなかった。

◎ 60代女性が１階台所で天ぷら油を入れた鍋をガスコンロに掛けたまま放置し、２階で息子と話をしていた（その間約２０分）。１階台所及び階段に設置してあった住警器が鳴動し、台所の火災に気づいた。火の勢いが強いため、初期消火せずに息子と避難した。

≪早く気付き、火災発生または拡大に至らなかった事例≫

◎ 居住者（７０代男性）が、台所で煮物を温めようと鍋をガスコンロにかけ火をつけた。その場を離れたため、鍋が空焚き状態になり、住警器が作動した。警報音に気付いた居住者がコンロの火を消し、１１９番通報した。

◎ 家人が寝たばこにより焦がした座布団をゴミ袋に入れ、台所に放置した。就寝中に、居室内に設置している住警器の警報音に気付き、座布団が燃えているのを発見した。
　ペットボトルに汲んだ水道水をかけ、初期消火した。